

【命を繋ぐ水】

福岡県 筑陽学園中学校

二年 川崎 康生

水が地球からなくなったら私たちの生活はどうなってしまうのだろうか。作物は育たず、家畜も出来ず、そうなると私達は食べる物がなくなり生きて行けなくなる。当たり前なのにどがかわいたら水を飲み、顔を洗い、トイレに行き、お風呂に入り、洋服は毎日洗濯し、このように快適に生活出来ているのは全て水が関わっている。日本では蛇口をひねるときれいで安心して飲める水が当たり前に出てくる。そのためこれまでの私は水の大切さ、重要さを考える事はなかった。

普段の生活の中で私は毎日夕食後に自分のお皿を洗っていて「出しっぱなしはもったいないよ。」と言われる事がある。その「水がもったいない。」と言うのは、資源としての水に対してではなく水道代がもったいないという間違えた認識をしていた。水道代の無駄遣いは、確かにもったいないけど、私達が考えていかなければならないのは資源としての水を無駄遣いしないといけないと言うことだと思う。こまめに蛇口を止めて節水しているつもりでも改めて考えてみると、日常の中に無駄遣いがたくさんある事に気が付いた。まず一番思うのは冬の朝顔を洗う時やシャワーの時お湯になるまでの間出しっぱなしにして待っている事だ。この水を捨てずに貯めておいたとしたら洗濯や庭の植木、観葉植物などの水やりに使える。多少面倒でもこの小さな事を繰り返して行く事によって大きな変化になると思う。

日本では日常にきれいな水があふれているがアフリカなど世界には六億人以上の人々がきれいに洗浄された水を飲む事が出来ていない。よくテレビでアフリカの子供達が川へ水をくみに行っている光景を目にする。こんなに恵まれた生活をしている私達には想像も出来ない。

では、日本でもおなじような事が起こるのか。今全国各地で地震や台風、土砂災害、山火事などが起きている。今は私は被害に合っていないけれど今

後予測されている南海トラフ巨大地震などもあり、いつ自分が被災者になるか分からない。被災者の人々が水が出なくてお風呂やトイレに困ったりするのを見て自分がその身になるのを考えてみただけで怖くてたまらない。

そう言えば何年か前の大きな台風の時に大きな被害が出てライフラインが止まる事も予想されていたので、お風呂の水を貯めポリタンク三本にも水を準備し、水を入れたペットボトルを凍らせたりなど両親が出来る限りの備えをしていた。当時は深く考えていなかったから何でそんなに必死なんだろうと思っていた事を思い出した。小学校の時SDGsの取り組みについて学んだにも関わらず、水は無限にあるものだと思い込み大切にする気持ちや「水は有限。」という意識がなかった。親が洗車をしていると水あそびをしてみたり、夏に水ふうせんをバシャバシャとぶつけ合って遊んだり当たり前にある水を無駄遣いしてしまっていた。水は決して当たり前ではないのに、水は地球上で循環しているから無くなる事はないと言われていたが水源の破壊や汚染によって、水不足が悪化すると言われている。

だがこうした原因はすべて、私達一人一人が日々の生活を見直し意識して行くことで少しずつ社会は変わって対策に繋がっていくはずだ。冷たくておいしい水、生きるための水、生活のための水、大事に感謝して使って行こう。